

災害と人権

考えておきましょー！もつものきり

災害と人権問題とは切り離せない関係にあります。災害は多くの人命を危険にさらし、人々の日常の暮らしを奪います。そのため、日頃から災害時を想定した対応や、その後の避難生活などについて考えておくことが大切です。

災害が発生した直後は、生命そのものが危険にさらされます。続いて食料や水、安全の確保や医療など生存権の保障が一番の課題になります。避難所に避難した場合には、プライバシーを含めた個人の尊厳や幸福追求権などの保障が課題となります。おとなは仕事を奪われ、子どもたちも学習の場を奪われます。緊急の段階をすぎ、復旧、復興の段階になると住居や雇用、教育などの社会的、経済的な権利の保障が重要になってきます。

東日本大震災後、東京都が実施した災害時に起きると思う人権問題についてのアンケート調査によると、「避難生活でプライバシーが守られないこと」が53%で最も多く、次いで「要支援者（障がい者・高齢者・乳幼児・妊産婦など）に対して、十分な配慮が行き届かないこと」52%、「避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさかいが生じること」43%、「デマ・風評などによる差別的な言動が起きること」40%、「支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと」40%などの順となっています。

災害を想定して考えなければならぬことは、地域住民の多様な視点を反映させ、日頃から誰も排除しない社会づくりをしなければならぬということです。そしてそれは災害弱者になりやすい人たちが、地域で孤

立したり、必要なサービスを受けないということ、を減らすことにつながります。このことは被災地や災害発生時に限らず、社会全体のあり方に関わることであり、日頃から必要とされるものです。

突然起こる災害に対しては、自らを自らが助ける「自助」が基本となりますが、隣近所が互いに助け合う「共助」の精神で対応することも大変重要なことです。あなたの周りの災害弱者になりやすい人たちには、災害時にどんな問題が起きて、どんな援助や配慮が必要になるのか、家族で、地域で考えてみませんか。

日頃からの備えが、もしものときに、あなた自身やあなたの周りの大切な人の命や人権を守ることにつながります。

市人権推進課(教育庁舎1階)  
☎ 32・2122  
FAX 33・3525  
Mail: jinkensushin@city.komatsushima.tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (322) 松並敦子・選

朝起きて身体からだの調子確かめて地蔵参りに行けるうれしさ

柳瀬町 松下 玉枝

《評》米寿を過ぎた松下さんは信心深い。朝起きて今日のこの体調なら近くのお地藏さんにお参りに行けると思うと、それだけでうれしくなる。お地藏さんは地域で最も身近な信仰の対象であり、いつも守っていただいているとの思いが強く、時にはお供えを持ち、新しい帽子など掛けかえてあげることもあるのだろう。お地藏さんもさぞ、お喜びのことと思う。

降るように花びら風に散りており決断の「時」いまかも知れぬ

田浦町 西 照子

言葉から離れてみたき日のありて低速バスで遠出をしたり

横須町 山崎 泰子

夫逝きて五十一年目の命日を病院のベッドで経あげ詫わびる

神田瀬町 大西カヲル

今年また長楽苑で花見の宴去年の今ごろ亡あに兄も居ました

田浦町 太田カツミ

シースルーエレベーターに吾一人決断つかぬまま昇りゆく

立江町 大西 和美

最後かと思えど嬉し同窓会行こう行こうよと友の電話が続く

横須町 三宅 敏恵

わが町の昔むかしの物語金長狸はいまも健在

横須町 福島 夢栄

一段と彩いろどり冴えしかトレアは春の始めの玄關飾る

立江町 濱 耕一

花ならば老桜のわれ散り難がたし為なすことあれば花びらを受く

江田町 深田 伴子